

Ⅲ 肉用牛肥育分析結果 –肉用種去勢若齢肥育経営の収益性動向–

1. 近年の収益動向分析

肉用牛肥育経営の平成15～20年度の肥育牛平均飼養頭数1頭当たり（以下「肥育牛1頭当たり」という）の6ヵ年間の収益性とその要因となる技術成績、経営の安全性を表1にまとめた。

ただし、20年度の集計結果は集計戸数が35戸と限られることから、15～19年度の5ヵ年間の推移を中心に分析し、平成20年結果については参考値として掲載するので、留意いただきたい。

表1 収益性と技術成績の5ヵ年間の推移

区分			単位	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
集計戸数			戸	61	45	70	96	97	35
規模	労働力員数		人	1.7	1.8	1.7	1.6	1.6	1.7
		うち家族員数	人	1.5	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4
	肥育牛飼養頭数	肉用種肥育牛飼養頭数	頭	118.4	120.3	109.8	95.9	91.8	120.7
		乳用種肥育飼養頭数	頭	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	肥育牛販売頭数	肉用種去勢若齢販売頭数	頭	64.3	74.6	63.1	53.9	52.5	55.5
		乳用種若齢販売頭数	頭	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		乳用種一貫販売頭数	頭	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
収益性	家族労働力1人当たり年間経常所得		千円	5,435	7,331	5,472	3,975	3,740	-494
	肥育牛1頭当たり年間経常所得		円	71,270	87,158	79,636	69,049	62,505	5,505
	所得率		%	14.7	14.8	13.8	11.5	10.6	1.0
	肥育牛1頭当たり売上高		円	485,763	587,576	577,225	598,110	591,282	576,218
	うち肥育牛販売収入		円	471,525	571,601	566,117	590,827	583,202	570,746
	肥育牛1頭当たり売上原価		円	414,250	501,869	492,681	530,289	541,994	582,761
	肥育牛1頭当たり当期生産費用		円	466,035	490,453	545,305	575,751	586,267	547,610
	肥育牛1頭当たりもと畜費		円	244,373	264,542	303,864	313,460	304,275	259,743
	肥育牛1頭当たり購入飼料費		円	134,011	141,128	141,264	156,469	168,901	194,133
	肥育牛1頭当たり労働費		円	42,848	39,532	48,483	51,977	53,402	46,202
	肥育牛1頭当たり減価償却費		円	15,796	13,150	16,526	16,625	20,438	15,626
	労働力1人当たり肥育牛飼養頭数		頭	73.5	71.1	65.6	62.6	62.1	81.7
技術諸要因 (肉用種)	もと牛1頭当たり購入・保留価格		円	350,546	414,019	446,699	506,331	522,417	559,689
	肥育牛出荷1頭当たり販売価格		円	815,625	903,434	938,441	1,005,394	1,002,371	1,009,468
	枝肉1kg当たり販売価格		円	1,771	1,904	1,951	2,091	2,015	2,041
	肥育牛1頭当たり出荷時体重		kg	698	706	722	737	745	757
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重		kg	0.70	0.71	0.74	0.75	0.77	0.75
	平均肥育日数		日	608	616	590	603	598	625
	平均肥育回転率		回	0.61	0.65	0.61	0.59	0.58	0.56
	肥育牛1頭当たり資金借入残高		円	344,508	348,816	397,915	248,641	232,731	275,619
安全性	肥育牛1頭当たり借入金償還負担額		円	26,235	30,885	20,997	15,444	19,803	34,227

1) 経常所得の推移とその要因

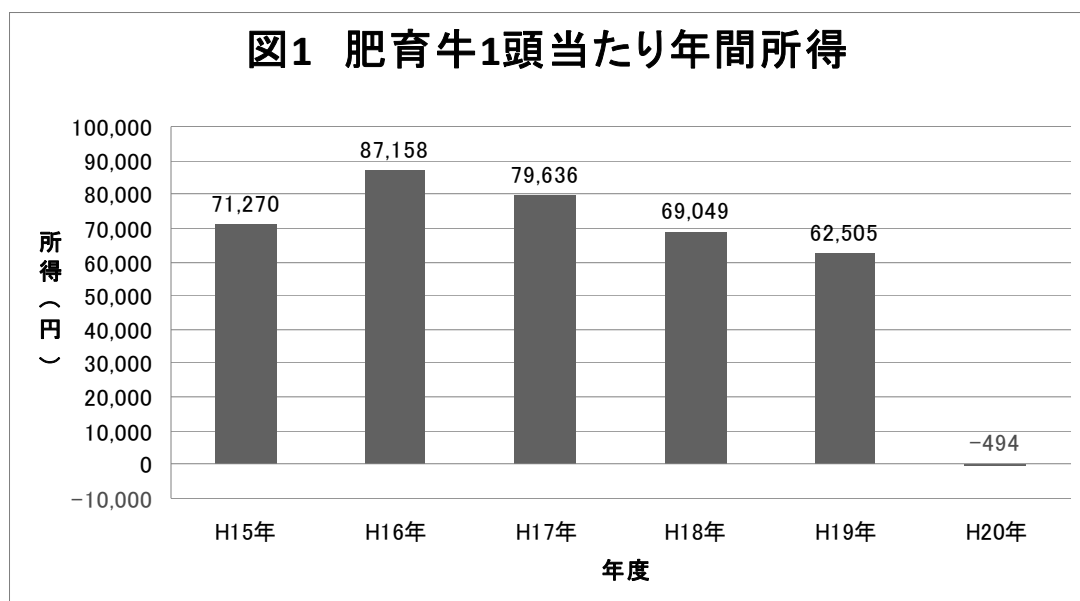
(1) 経常所得

平成15～19年度の5ヵ年の経常所得（以下、「所得」という。）の推移を見る（図1）。

調査経営全体では、19年度の所得は63千円と平成15年（71千円）に対して12%減少している。

16年をピークに徐々に下がり、ピーク時に比べ平成19年の所得は28%も下がっ

ている。



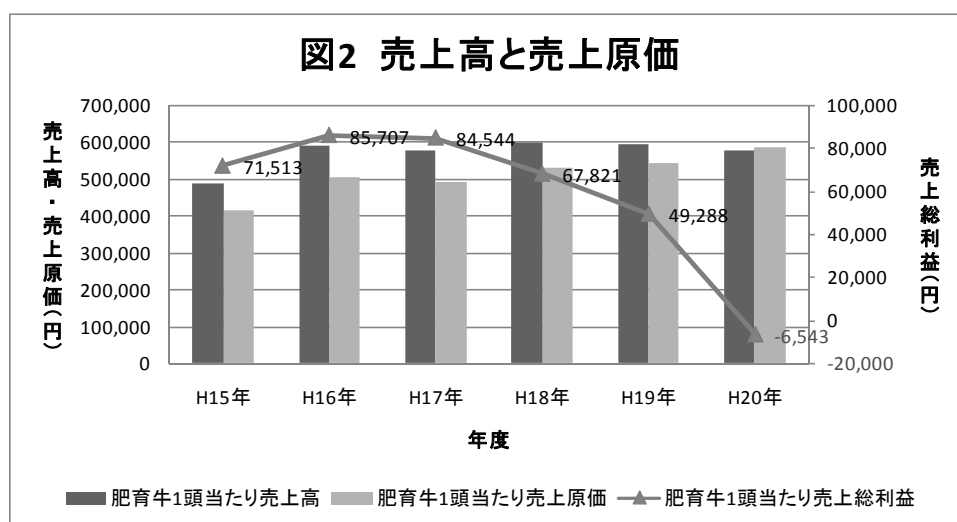
(2) 売上高と売上原価

近年の所得の下落の要因を探るため、次に肉用牛経営の本体業務ともいえる肥育牛販売によりどれだけの利益を得られているのか、その傾向を探るため売上高と売上原価、そして、その差引であり経営の基本力を見る指標といえる売上総利益に着目してみる。(図2)

売上高は、平成15年度に比べ19年度は591千円と22%増えているが16年度以降は590千円前後で推移している。

一方、売上原価は上昇傾向にあり、19年度は542千円と15年度に比べ31%増加している。

この売上原価の上昇により売上総利益は、16年度の86千円をピークに年々下がり19年度は49千円とピーク時に比べ42%も減っている。



(3) 主要な生産費用の推移

近年大きく収益が落ち込む中、その主たる要因である肥育牛生産費用について主要な項目の推移を見る。(図3)

肥育牛生産の主要な費用となるもと畜費と購入飼料費は、売上総利益が下がる中、年々上昇しており、平成19年度ではもと畜費304千円、購入飼料費169千円、その合計は473千円となっており、15年度に比べ、もと畜費25%、購入飼料費26%、合計25%上昇している。

ここで、当期生産費用に占める主要費用の占める割合の推移を見る。(表2)

これを見ると、主要な費用であるもと畜費、購入飼料費の当期生産費用に占める割合は大きくは変化していないことから、生産コスト全体が上昇していることがうかがえる。

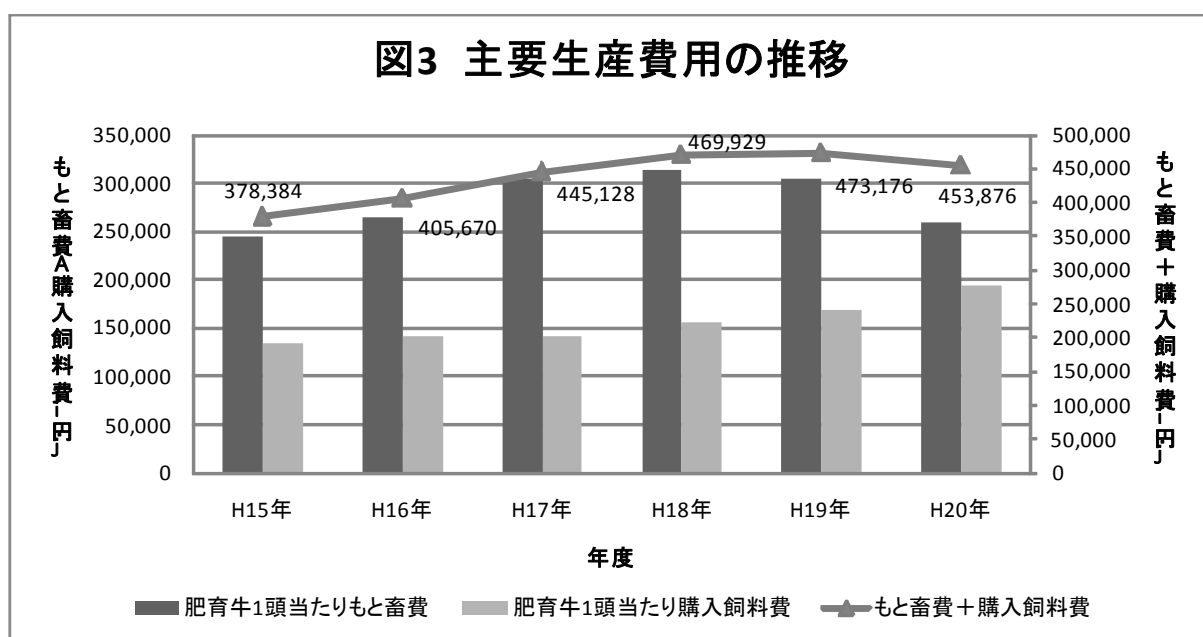


表2 当期生産費用の5ヵ年間の推移

区分	単位	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
肥育牛1頭当たり当期生産費用	円	466,035	490,453	545,305	575,751	586,267	547,610
肥育牛1頭当たりもと畜費+購入飼料費	円	378,436 (81.2)	405,724 (82.7)	445,184 (81.6)	469,983 (81.6)	473,228 (80.7)	453,923 (82.9)
もと畜費	円	244,373 (52.4)	264,542 (53.9)	303,864 (55.7)	313,460 (54.4)	304,275 (51.9)	259,743 (47.4)
購入飼料費	円	134,011 (28.8)	141,128 (28.8)	141,264 (25.9)	156,469 (27.2)	168,901 (28.8)	194,133 (35.5)

※カッコ内は当期生産費用に占める割合

(4) 技術成績の推移

肉用牛肥育技術成績の推移は表3のとおりである。

もと牛1頭当たり購入・保留価格は年々上昇傾向にあり、平成19年度は522千円と15年度(351千円)に比べ49%上昇している。

一方、肥育牛出荷1頭当たり販売価格も上昇傾向にあり、19年度は1,002千円と15年度(816千円)に比べ23%上昇しているがもと牛価格の上昇率に比べると

低い。

このことから、「肥育牛販売価格－もと牛購入・保留価格」は 19 年度が 480 千円と 15 年度（465 千円）に比べ 3%増、17 年度以降は下降傾向にある。

技術成績を見ると、肥育牛の 1 日当たり増体重が増加してきており、19 年度は 0.77kg と 15 年度（0.70kg）に比べ 10%（0.07kg）増量している。

このことにより、出荷時の体重、平均肥育日数も向上し、出荷時体重は 745kg と 15 年度（698kg）に比べ 7%増加、平均肥育日数は 598 日と平成 15 年（608 日）に比べ 10 日間の短縮につながっている。

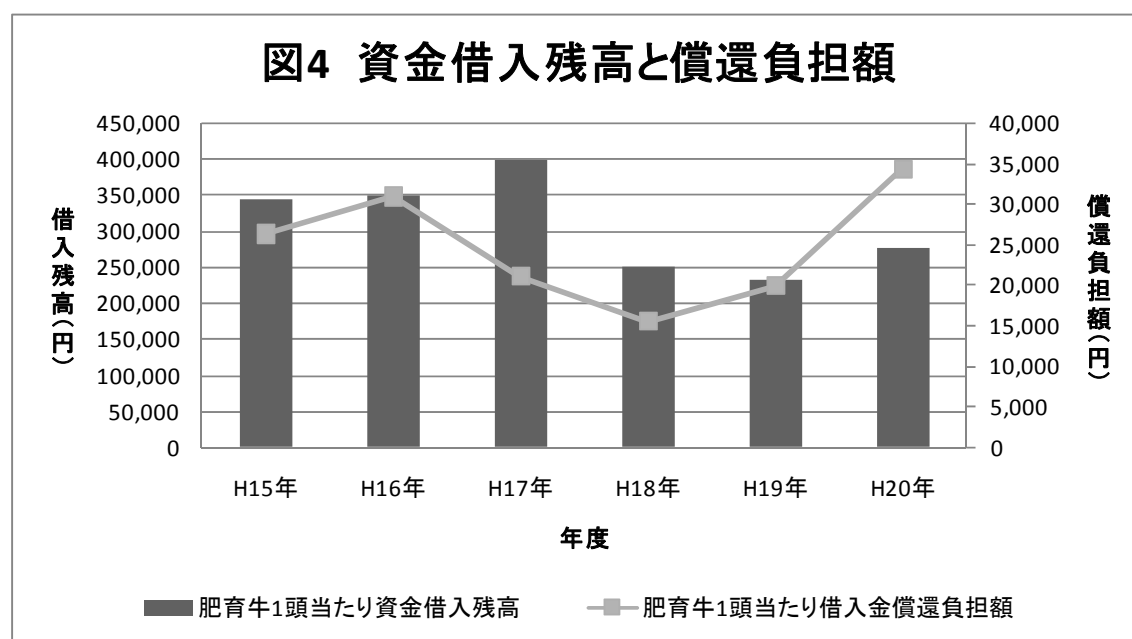
表3 肉用牛肥育経営の技術成績の推移

区分	単位	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
もと牛1頭当たり購入・保留価格	円	350,546	414,019	446,699	506,331	522,417	559,689
肥育牛出荷1頭当たり販売価格	円	815,625	903,434	938,441	1,005,394	1,002,371	1,009,468
肥育牛販売価格－もと牛購入・保留価格	円	465,079	489,415	491,742	499,063	479,954	449,779
肥育牛1頭当たり出荷時体重	kg	698	706	722	737	745	757
販売肥育牛1頭1日当たり増体重	kg	0.70	0.71	0.74	0.75	0.77	0.75
平均肥育日数	日	608	616	590	603	598	625

（5）経営の安全性

資金借入残高は平成 17 年度までは増加傾向にあったが、18 年度以降は減少傾向にあり、19 年度は 233 千円とピークの 17 年度（398 千円）に比べ 42%減となっている。

一方、毎年、借入金償還負担額は、16 年度をピークに減少傾向にあったが、19 年度は 20 千円と前年（15 千円）比 28%増となっている。



(6) まとめ

以上のように、平成 15～19 年度の肉用牛肥育経営の収益性を時系列分析をしてみると、売上高が伸び悩んでいるのに対して、生産コスト全体が上昇していることで、所得は 16 年度をピークに年々下がり傾向にある。

経営の安定性の面では、資金借入残高は 17 年度をピークにして減少傾向にある。

2) 肥育牛飼養頭数規模別の収益性の推移とその要因

肉用牛肥育経営の平成 15～19 年度の肥育牛平均飼養頭数 1 頭当たり（以下「肥育牛 1 頭当たり」という）の 5 ヶ年間の収益性とその要因となる技術成績、経営の安全性を、肥育牛飼養頭数規模別でみる。

(1) 労働力員数と肥育牛飼養頭数

肥育牛飼養頭数規模別の労働力員数及び肥育牛（肉用種）飼養頭数は表 4～5 のとおりである。

表 4 肥育牛飼養頭数規模別労働力員数

(単位:人)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	1.2	0.7	0.7	0.8	0.7	0.7
30 ～ 50頭	0.8	0.8	1.5	0.9	1.0	1.2
50 ～ 70頭	1.1	1.2	1.1	1.5	1.4	1.3
70 ～ 100頭	1.5	1.4	1.6	1.5	1.6	1.4
100 ～ 150頭	1.8	2.0	1.9	2.2	2.0	2.0
150 ～ 200頭	2.1		2.3	2.8	2.3	2.4
200頭 ～	2.8	3.1	2.8	2.9	2.5	2.8

表 5 肥育牛飼養頭数規模別肥育牛(肉用種)飼養頭数

(単位:頭)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	24.0	18.8	23.4	22.6	20.3	16.7
30 ～ 50頭	40.0	32.2	41.5	39.9	40.3	43.0
50 ～ 70頭	58.5	57.7	62.3	62.1	61.5	62.3
70 ～ 100頭	83.7	84.0	82.4	81.9	81.1	80.0
100 ～ 150頭	119.9	115.4	113.9	122.4	115.6	115.5
150 ～ 200頭	176.5		162.0	171.2	164.6	190.5
200頭 ～	288.5	279.3	276.7	280.6	270.4	412.4

(2) 経常所得

平成 15～19 年度の 5 ヶ年の所得の推移を肥育牛飼養頭数規模別に見る（表 6、図 5）。

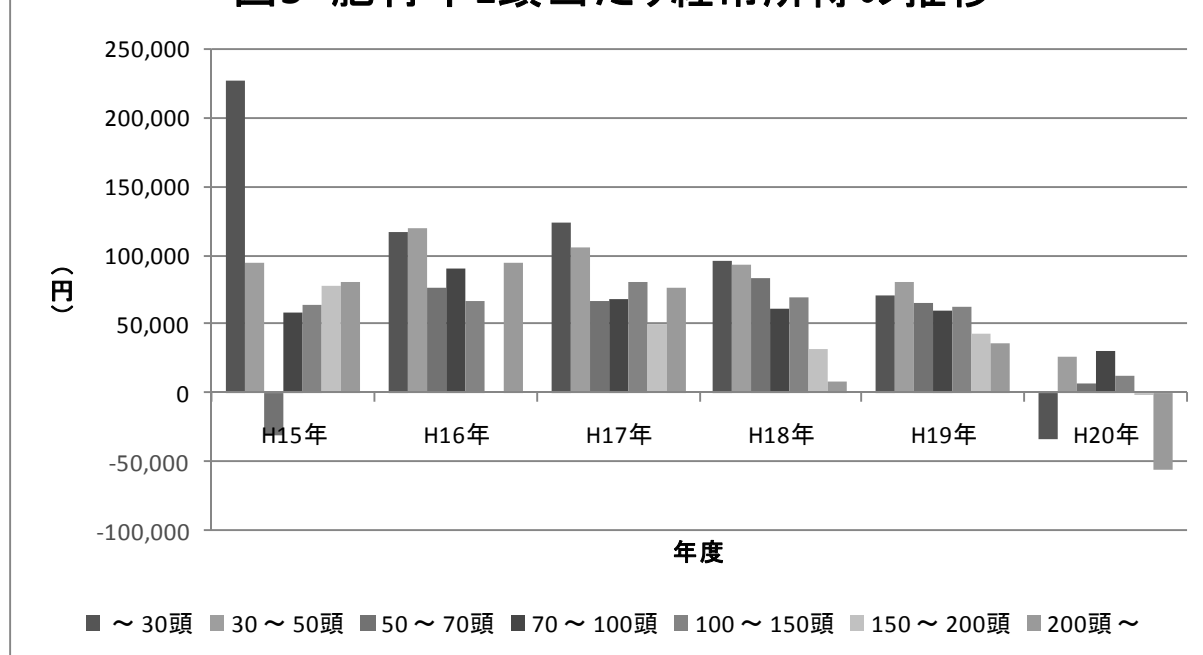
これを見ると、17 年度以降は肥育牛飼養頭数規模が大きいほど所得が下がる傾向にあり、19 年度は 30 頭以下階層と 200 頭以上階層では約 2 倍の開きが生じている。

表6 肥育牛飼養頭数規模別経常所得

(単位:円)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	225,916	116,166	123,209	96,077	71,379	-33,795
30 ～ 50頭	93,776	119,917	105,586	92,408	80,473	26,201
50 ～ 70頭	-30,042	76,442	67,326	83,388	65,488	7,184
70 ～ 100頭	58,881	90,575	67,919	61,280	59,384	31,113
100 ～ 150頭	63,242	66,005	80,482	69,918	62,083	12,223
150 ～ 200頭	78,024		50,605	32,428	43,581	-1,851
200頭 ～	80,303	94,589	76,132	7,959	36,264	-55,196

図5 肥育牛1頭当たり経常所得の推移



(3) 売上総利益

売上総利益の5年間の推移を見ると、30頭未満階層と100頭以上の階層で減少が激しく、平成19年度は15年度に比べ30頭未満階層では83%（平成16年に比べては57%）、200頭以上階層では67%減少している。

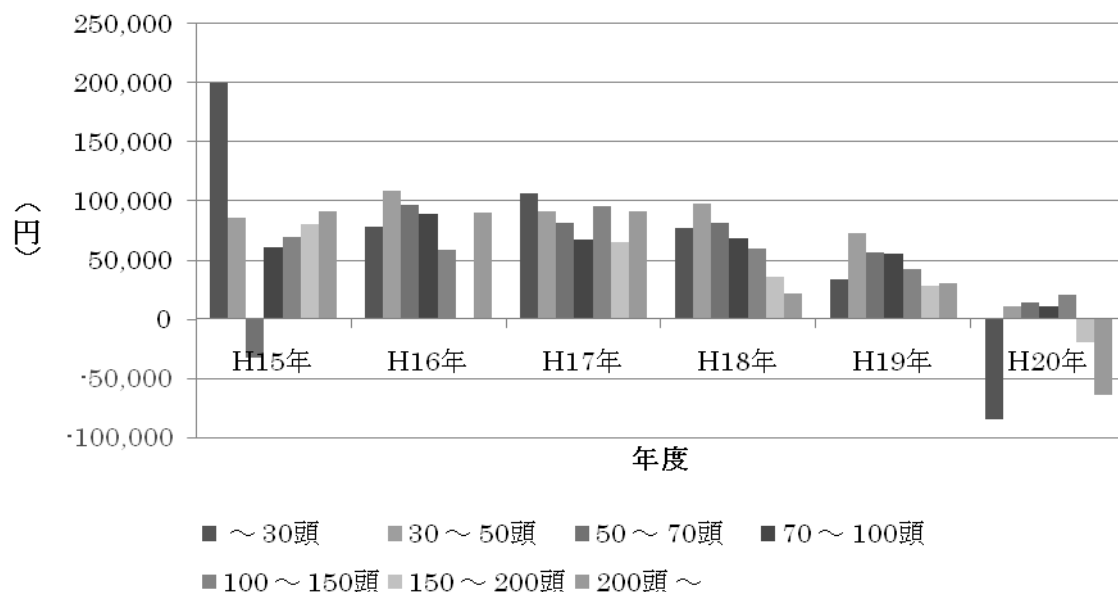
それに比べて、70～100頭規模階層では、15年度に比べて10%の減少にとどまっている。（表7、図6）

表7 肥育牛飼養頭数規模別売上総利益

(単位:円)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	199,039	77,857	105,786	76,711	33,478	-85,334
30 ～ 50頭	85,585	108,368	90,722	96,911	72,256	10,503
50 ～ 70頭	-32,601	95,881	80,713	81,137	55,798	13,756
70 ～ 100頭	60,547	88,606	66,503	67,522	54,590	10,856
100 ～ 150頭	68,635	58,300	95,534	59,713	42,356	19,851
150 ～ 200頭	80,370		64,792	35,434	27,936	-20,146
200頭 ～	90,914	89,804	91,114	21,186	30,005	-64,100

図6 肥育牛1頭当たり売上総利益の推移

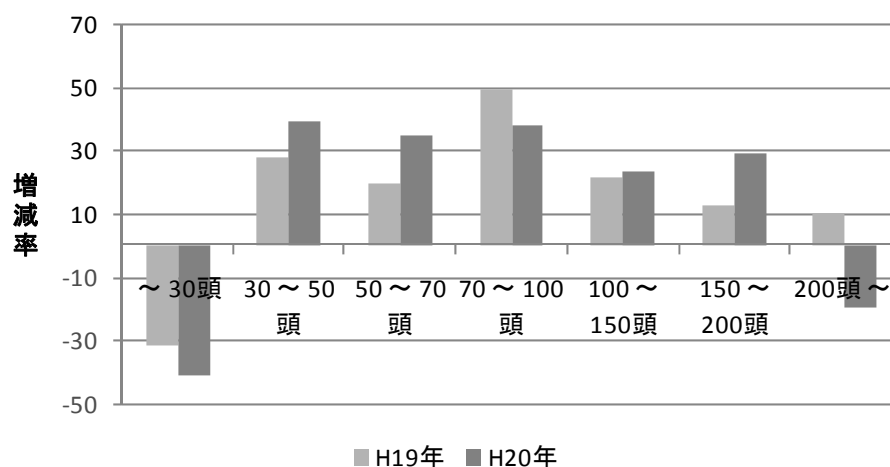


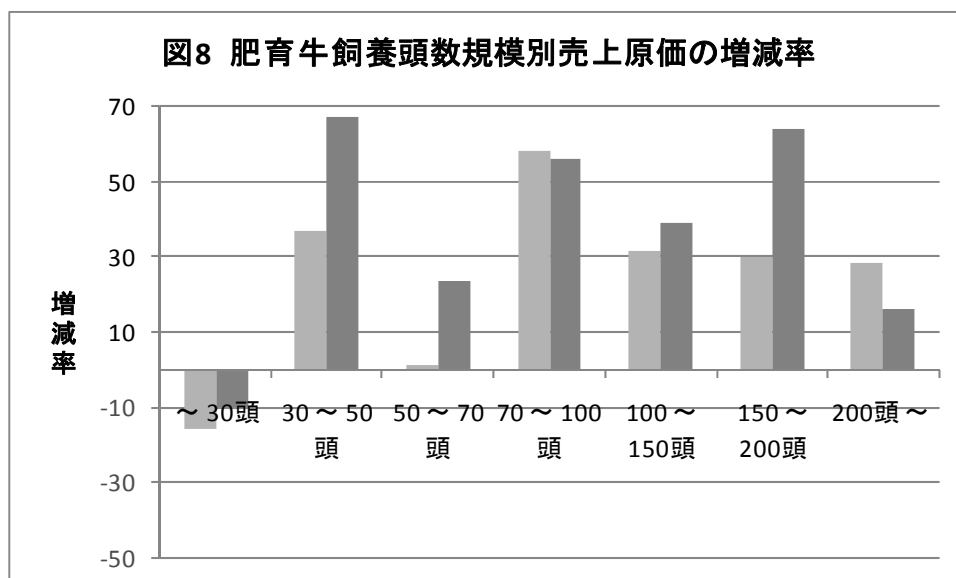
この要因を探るため、売上高と売上原価について、平成15年度に対する19年度の増減割合を見てみると図7、8のとおりとなる。

これを見ると上位階層ほど売上高の増加率に比べて、売上原価の増加率が高い傾向がうかがえる。

これらが影響して、売上総利益、所得の段階で上位階層ほど低い結果となっていることがうかがえる。

図7 肥育牛飼養頭数規模別売上高の増減率





(4) 主要な生産費用の推移

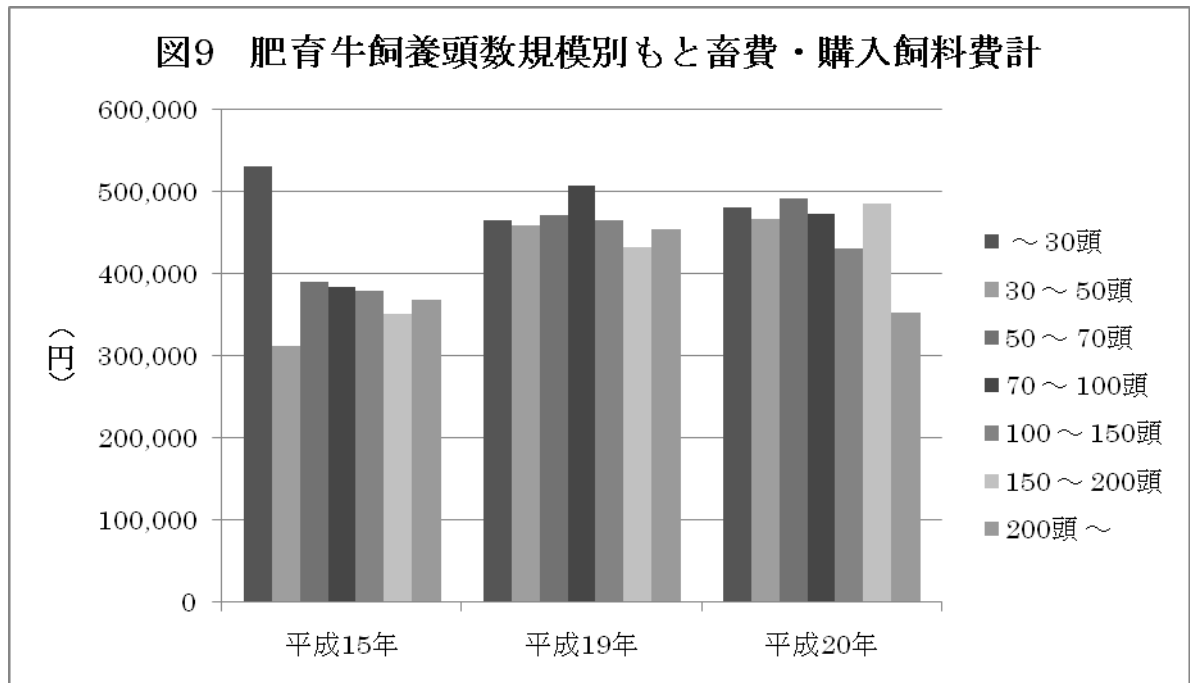
肉用牛肥育経営の主要な生産費用であるもと畜費と購入飼料費について、平成15年度と19年度を比較してみると、表8、図9となっており、30頭未満階層を除けば、20～50%の範囲で各階層ともに上昇していることがうかがえる。

表8 肥育牛飼養頭数規模別もと畜費・購入飼料費

(単位:円、%)

	平成15年			平成19年			H19/15
	もと畜費	購入飼料費	計	もと畜費	購入飼料費	計	
～ 30頭	323,145	208,643	531,788	286,008	179,821	465,829	88
30 ～ 50頭	186,748	124,495	311,243	283,835	174,725	458,560	147
50 ～ 70頭	235,769	153,623	389,392	299,193	171,815	471,008	121
70 ～ 100頭	253,915	129,744	383,659	334,315	173,259	507,574	132
100 ～ 150頭	251,174	127,474	378,648	309,198	155,616	464,814	123
150 ～ 200頭	229,619	121,293	350,912	283,972	147,996	431,968	123
200頭 ～	247,327	121,371	368,698	290,374	163,915	454,289	123

	平成20年			H20/15
	もと畜費	購入飼料費	計	
～ 30頭	297,280	183,728	481,008	90
30 ～ 50頭	265,969	201,587	467,556	150
50 ～ 70頭	271,281	221,008	492,289	126
70 ～ 100頭	273,709	200,181	473,890	124
100 ～ 150頭	240,888	189,390	430,278	114
150 ～ 200頭	288,203	197,097	485,300	138
200頭 ～	194,437	157,858	352,295	96



(5) 技術成績の推移

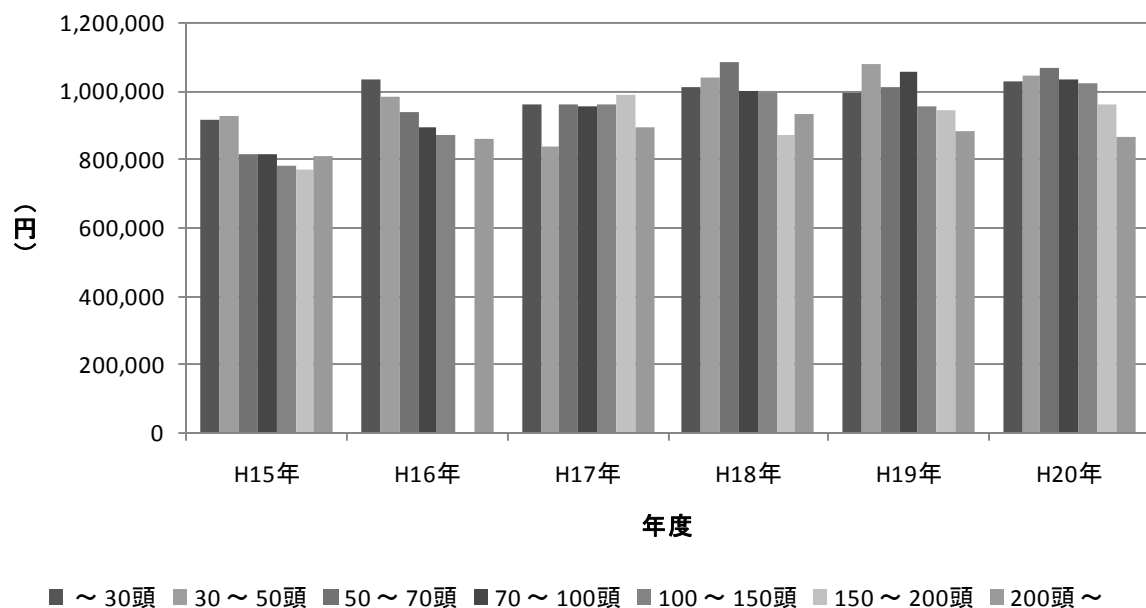
肥育牛出荷1頭当たりの販売価格を見てみると、年度間でややばらつきはあるものの、肥育牛飼養頭数規模の上位階層の方が1頭当たりの販売価格が低い傾向にある(表9、図10)。

表9 肥育牛飼養頭数規模別肥育牛出荷1頭当たり販売価格

(単位:円)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～30頭	911,699	1,031,783	960,153	1,008,368	991,304	1,028,525
30～50頭	922,828	982,103	836,568	1,036,014	1,076,342	1,040,256
50～70頭	813,340	934,799	960,308	1,081,894	1,007,579	1,064,741
70～100頭	812,032	893,070	955,026	998,103	1,052,327	1,032,889
100～150頭	777,776	867,681	956,552	995,106	955,109	1,022,179
150～200頭	770,401		989,525	866,545	941,185	961,294
200頭～	809,643	860,610	893,723	928,768	881,996	860,767

図10 肥育牛出荷1頭当たり販売価格の推移



そこで、その要因を探るため、もと畜購入価格、出荷時体重、増体重、肥育日数、枝肉 1kg 当たり販売価格に着目して規模階層間の違いを見てみる。

①もと牛 1 頭当たり購入・保留価格（表 10、図 11）

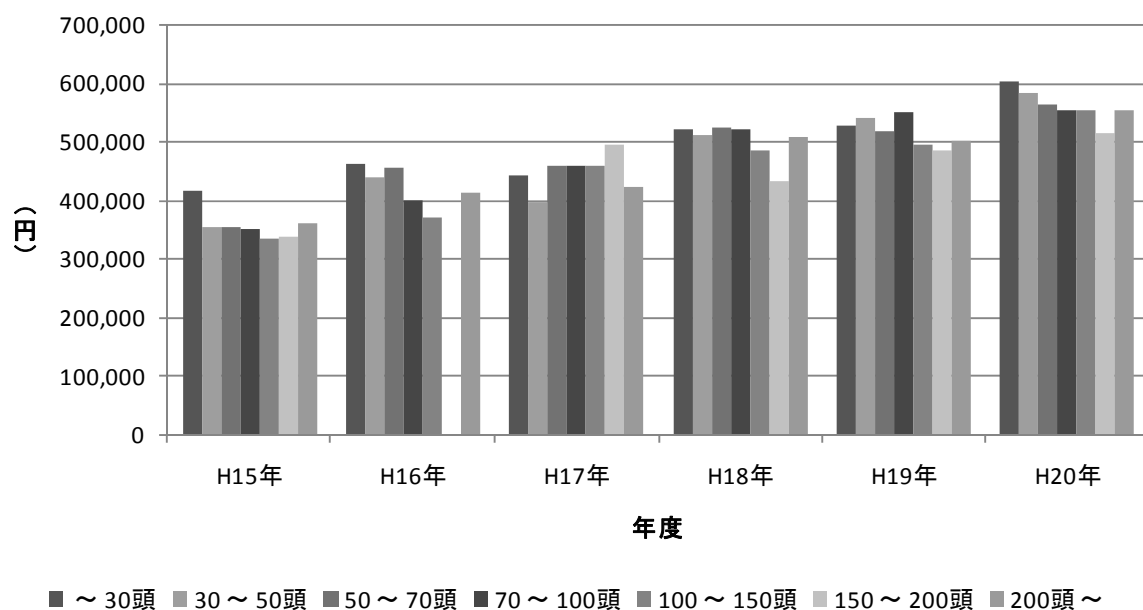
規模階層間で明らかな傾向をうかがうことはできないが、全体的にもと畜費が上昇傾向にあること、平成 18～19 年度は小・中規模階層の経営の方が上階層に比べ、もと畜費が高くなっていることがうかがえる。

表10 もと牛1頭当たり購入・保留価格

(単位:円)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	415,883	462,313	440,158	518,579	527,598	602,503
30 ～ 50頭	354,235	437,249	395,471	511,827	538,138	580,744
50 ～ 70頭	351,823	456,084	458,414	524,372	517,886	562,245
70 ～ 100頭	349,911	399,584	457,635	521,058	549,688	552,262
100 ～ 150頭	335,081	370,460	457,239	482,559	495,447	553,724
150 ～ 200頭	337,652		492,570	431,965	485,347	513,536
200頭 ～	359,600	410,849	423,196	507,101	499,950	553,345

図11 もと牛1頭当たり購入・保留価格の推移



②肥育牛1頭当たり出荷時体重（表11、図12）

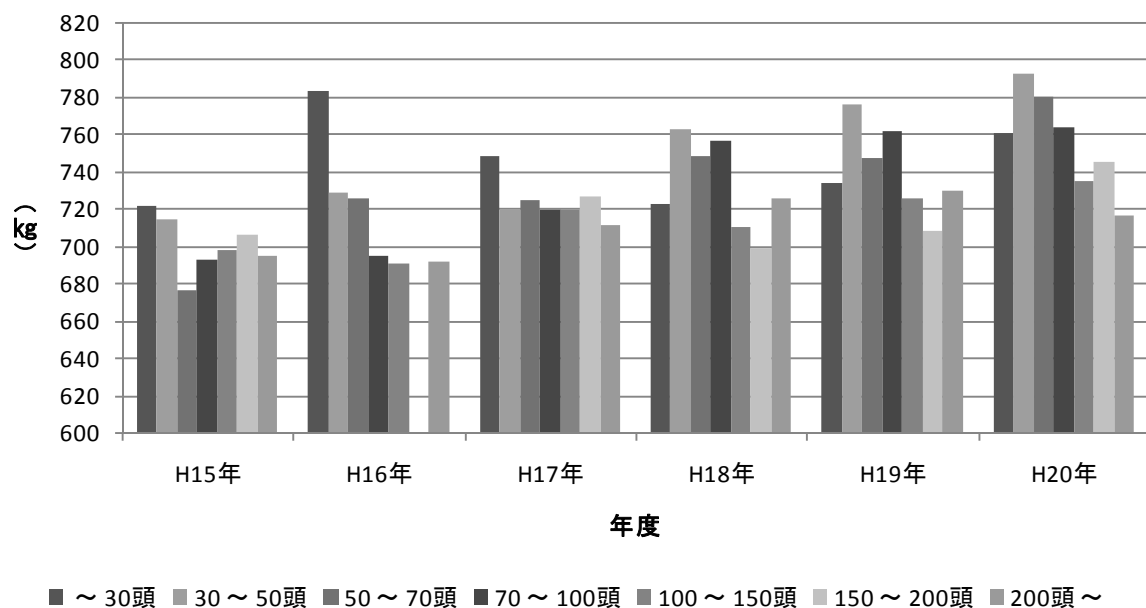
頭数規模階層間でばらつきはあるものの、平成17年度を除くと、16年度以降、上位階層の方が出荷時体重が小さい傾向にある。

表11 肥育牛1頭当たり出荷時体重

(単位:kg)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
~ 30頭	721	783	748	722	734	760
30 ~ 50頭	714	728	719	762	776	792
50 ~ 70頭	676	725	724	748	747	780
70 ~ 100頭	693	695	719	756	761	763
100 ~ 150頭	698	690	719	710	725	735
150 ~ 200頭	706		726	699	708	745
200頭 ~	695	692	711	725	730	716

図12 肥育牛1頭当たり出荷時体重の推移



③販売肥育牛1頭1日当たり増体重（表12、図13）

次に、肉用牛肥育経営の要となる1頭1日当たり増体重を見てみると、年度間でややばらつきはあるが、平成16年度以降は下位階層の方が増体重が良い傾向がうかがえる。

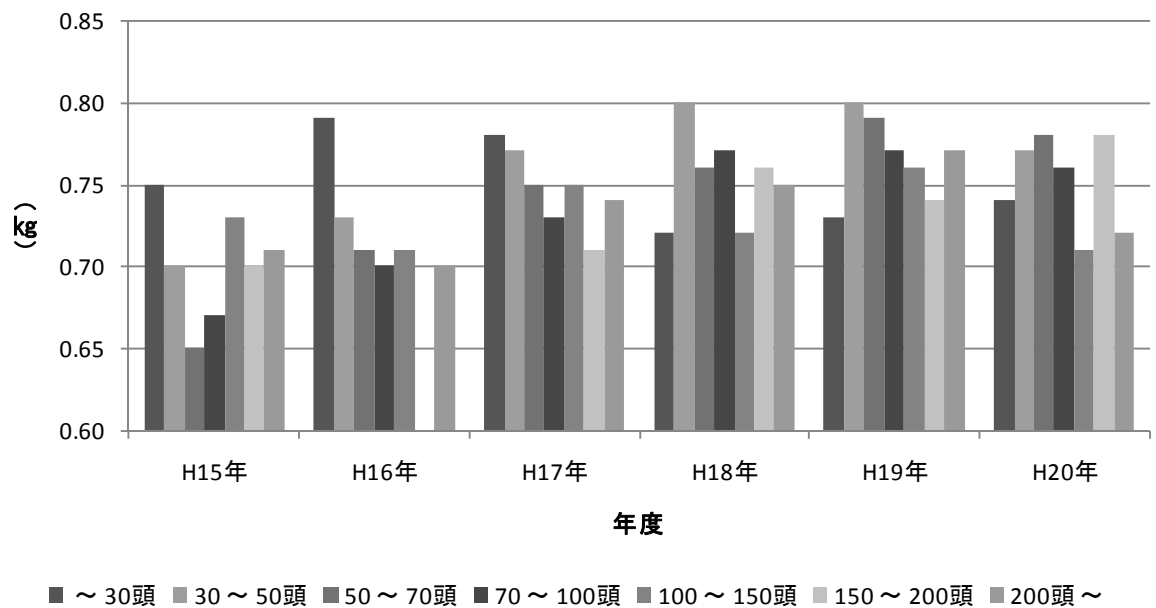
全体的には、増体重が向上していることが見てとれる。

表12 販売肥育牛1頭1日当たり増体重

(単位:kg)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
~ 30頭	0.75	0.79	0.78	0.72	0.73	0.74
30 ~ 50頭	0.70	0.73	0.77	0.80	0.80	0.77
50 ~ 70頭	0.65	0.71	0.75	0.76	0.79	0.78
70 ~ 100頭	0.67	0.70	0.73	0.77	0.77	0.76
100 ~ 150頭	0.73	0.71	0.75	0.72	0.76	0.71
150 ~ 200頭	0.70		0.71	0.76	0.74	0.78
200頭 ~	0.71	0.70	0.74	0.75	0.77	0.72

図13 販売肥育牛1頭1日当たり増体重の推移



④平均肥育日数（表 13、図 14）

一方、平均肥育日数を見てみると、規模階層間での明らかな違いを見て取ることはできない。

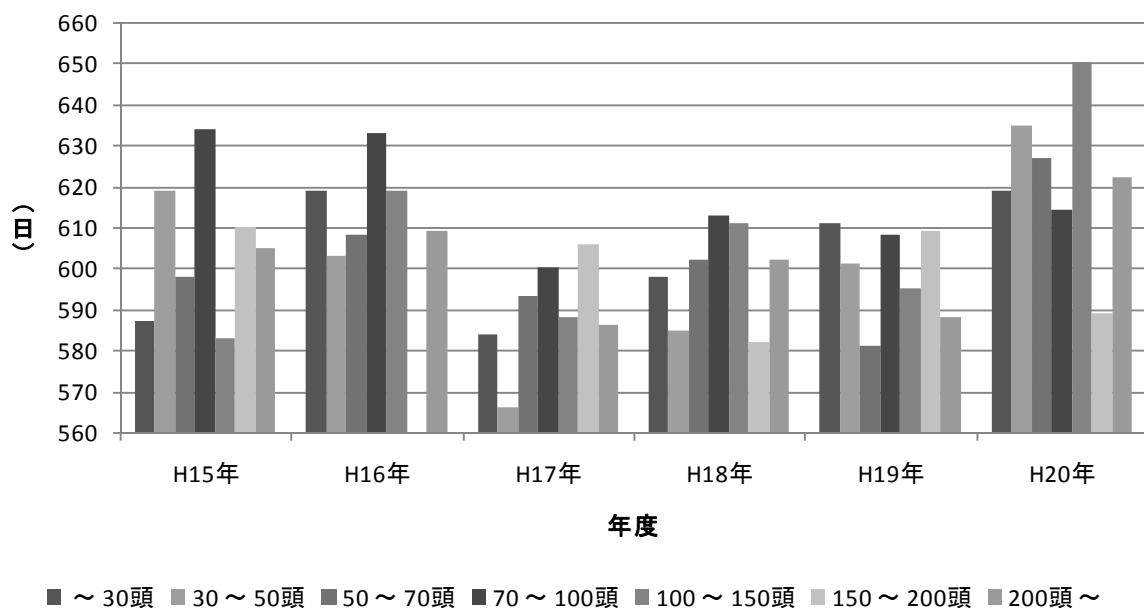
全体的には、平成 15～16 年度に比べて 17 年度以降は肥育日数に短縮の傾向が見てとれる。

表13 平均肥育日数

(単位: 日)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	587	619	584	598	611	619
30 ～ 50頭	619	603	566	585	601	635
50 ～ 70頭	598	608	593	602	581	627
70 ～ 100頭	634	633	600	613	608	614
100 ～ 150頭	583	619	588	611	595	650
150 ～ 200頭	610		606	582	609	589
200頭 ～	605	609	586	602	588	622

図14 平均肥育日数の推移



⑤枝肉 1kg 当たり販売価格（表 14、図 15）

年度間でばらつきはあるが、上位階層ほど枝肉 1kg 販売価格は低い傾向がうかがえる。

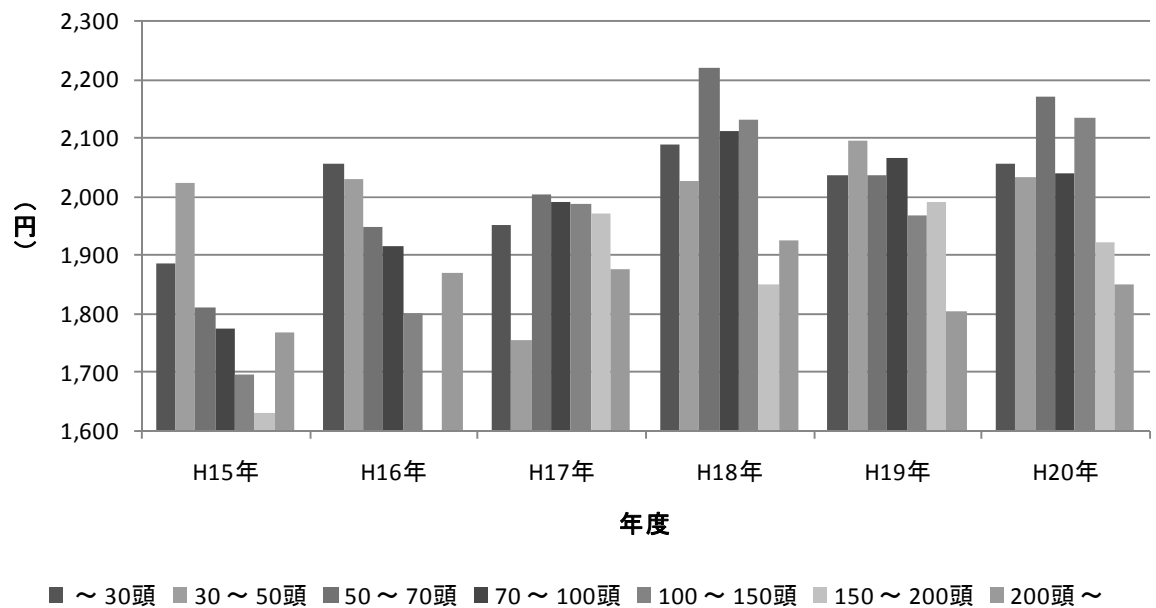
平成 19 年度でみると、最も高かった 30～50 頭階層と最も低かった 200 頭以上階層の差は 293 円となっている。

表14 枝肉1kg当たり販売価格

(単位:円)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年
～ 30頭	1,883	2,056	1,951	2,086	2,035	2,055
30 ～ 50頭	2,022	2,029	1,753	2,026	2,095	2,032
50 ～ 70頭	1,810	1,946	2,003	2,217	2,036	2,170
70 ～ 100頭	1,772	1,913	1,990	2,109	2,063	2,037
100 ～ 150頭	1,696	1,801	1,986	2,131	1,966	2,134
150 ～ 200頭	1,629		1,968	1,850	1,990	1,920
200頭 ～	1,766	1,869	1,874	1,924	1,802	1,849

図15 枝肉1kg当たり販売価格の推移



⑥上位階層で肥育牛1頭当たり販売価格が低い要因

以上①～⑤のとおり、平均肥育日数には規模階層間の大きな差はないが、肥育牛の増体重が下位階層の方が良く、それが結果として出荷時体重の階層間の差に表れていることが一つの要因と言える。

また、より良質な牛づくりという点から言えば、枝肉1kg当たり販売価格が下位階層の方が良いことも注目すべき点である。

(6) 経営の安全性

資金借入残高はピークであった平成17年度に比べると19年度は各階層とも減少している。

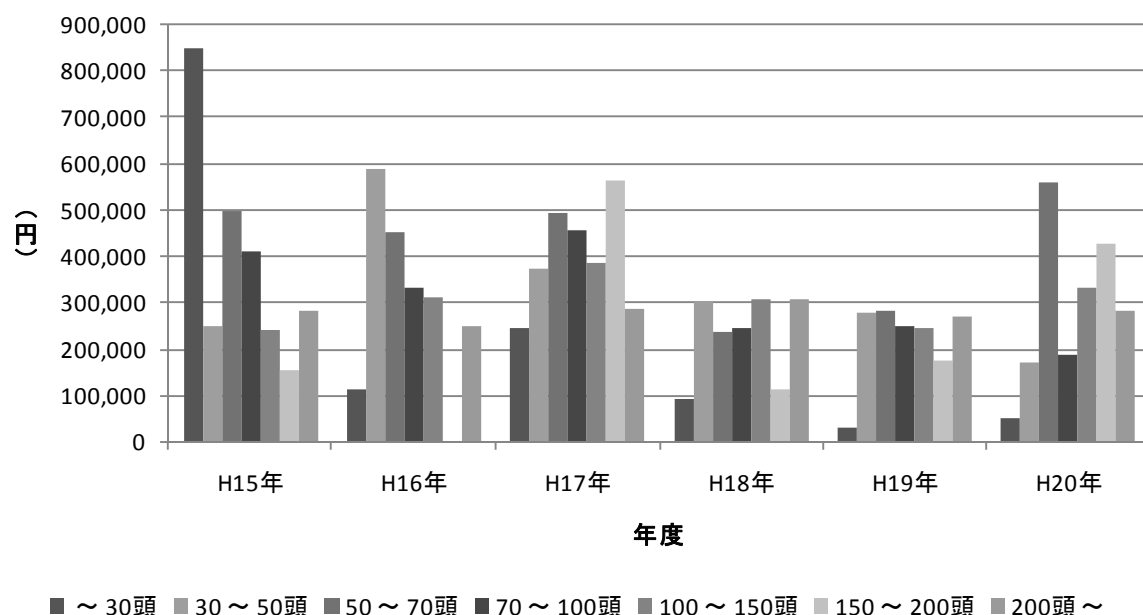
一方で、18年度と19年度を比べると、50～70頭階層、150～200頭階層で20%以上増加している。

表15 肥育牛飼養頭数規模別資金借入残高

(単位:円、%)

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H19/18	H20/18
～ 30頭	848,412	110,187	245,168	91,987	30,238	48,107	33	52
30 ～ 50頭	247,670	587,537	371,907	304,315	277,656	170,225	91	56
50 ～ 70頭	497,342	453,607	491,816	235,620	281,721	560,378	120	238
70 ～ 100頭	409,845	330,726	456,932	244,409	247,232	188,116	101	77
100 ～ 150頭	239,610	311,324	384,671	306,420	245,995	330,618	80	108
150 ～ 200頭	152,739		564,996	113,109	172,133	428,328	152	379
200頭 ～	281,110	248,094	286,946	308,823	271,286	283,816	88	92

図16 肥育牛飼養頭数規模別資金借入残高の推移



(7) まとめ

以上、平成 15～19 年の肉用牛経営について、肉用牛飼養頭数規模に経営を階層分けし傾向をみていくと、生産技術面、生産コストの上昇率等の面で上位階層ほど飼養管理や経営管理の面で課題があることがうかがえる。

3) 家族労働力 1 人当たり年間経常所得別の収益性の推移とその要因

肉用牛肥育経営の平成 15、17、19 年の肥育牛平均飼養頭数 1 頭当たり（以下「肥育牛 1 頭当たり」という）の収益性とその要因となる技術成績、経営の安全性を、家族労働力 1 人当たり所得階層別（以下、「所得階層別」という。）でみる。

階層分けは、調査経営を家族労働 1 人 1 日当たり所得の低い順から高い順に下位 20%、中位 60%、上位 20%に分けたものである。

平成 15、17、19 年の収益性とその要因となる技術成績、経営の安全性を表 16 にまとめた。

表16 家族1人1日当たり所得階層別の収益性と技術成績の5カ年間の推移

区分	単位	H15年			H17年			H19年			H20年		
		下位20%	中位60%	上位20%	下位20%	中位60%	上位20%	下位20%	中位60%	上位20%	下位20%	中位60%	上位20%
集計戸数	戸	13	35	13	14	42	14	20	57	20	7	21	7
	人	1.6	1.6	1.9	1.7	1.6	2.1	1.4	1.6	1.5	2.1	1.6	1.4
規模	労働力員数												
	肥育牛飼養頭数(肉用種)	72.2	112.6	180.5	75.4	89.5	205.2	70.9	88.9	120.7	277.7	75.0	101.0
	肥育牛販売頭数(肉用種去勢若齢)	37.5	62.0	97.2	38.3	50.5	126.1	40.4	49.3	73.7	97.0	44.0	48.3
	家族労働力1人当たり年間経常所得	-1,702	4,947	13,885	1,216	4,524	12,569	-830	3,089	10,165	-10,539	106	7,750
収益性	肥育牛1頭当たり年間経常所得	-4,267	73,613	140,498	29,966	83,704	117,102	-17,937	62,170	143,903	-64,100	980	88,686
	肥育牛1頭当たり売上高	499,825	488,001	465,675	564,245	584,954	567,017	489,919	584,568	711,779	431,189	606,945	629,067
	うち肥育牛販売収入	452,381	481,695	463,287	554,987	569,899	565,900	488,153	574,023	704,412	422,206	602,713	623,383
	肥育牛1頭当たり売上原価	509,201	412,409	324,255	527,576	498,693	439,752	537,323	536,236	563,074	497,246	624,710	542,430
	肥育牛1頭当たりもと畜費	259,095	247,714	220,654	277,722	314,306	298,680	295,345	289,333	355,788	212,228	268,542	280,863
	肥育牛1頭当たり購入飼料費	149,802	132,160	123,204	143,374	144,522	129,378	168,236	167,248	174,278	177,031	196,419	204,374
技術諸要因 (肉用種)	肥育牛出荷1頭当たり販売価格	781,988	831,027	807,575	932,694	958,501	884,008	906,361	1,010,807	1,066,002	868,605	1,015,415	1,132,492
	枝肉1kg当たり販売価格	1,751	1,799	1,719	1,990	1,988	1,803	1,833	2,026	2,151	1,850	2,023	2,286
	肥育牛1頭当たり出荷時体重	686	696	713	715	723	727	731	750	745	729	766	758
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重	0.69	0.69	0.72	0.72	0.75	0.77	0.76	0.77	0.76	0.74	0.75	0.74
	平均肥育日数	584	618	605	602	590	577	575	603	605	617	626	631
安全性	肥育牛1頭当たり資金借入残高	448,298	383,585	135,513	584,249	437,335	93,321	293,866	212,669	228,773	376,453	264,332	208,648

(1) 規模

表 16 のとおり、所得階層別に見た場合、上位階層ほど肥育牛飼養頭数規模が大きく、下位階層と上位階層を比べた場合、平成 15、17 年度は 2.5～2.7 倍、19 年度は 1.7 倍の開きがある。

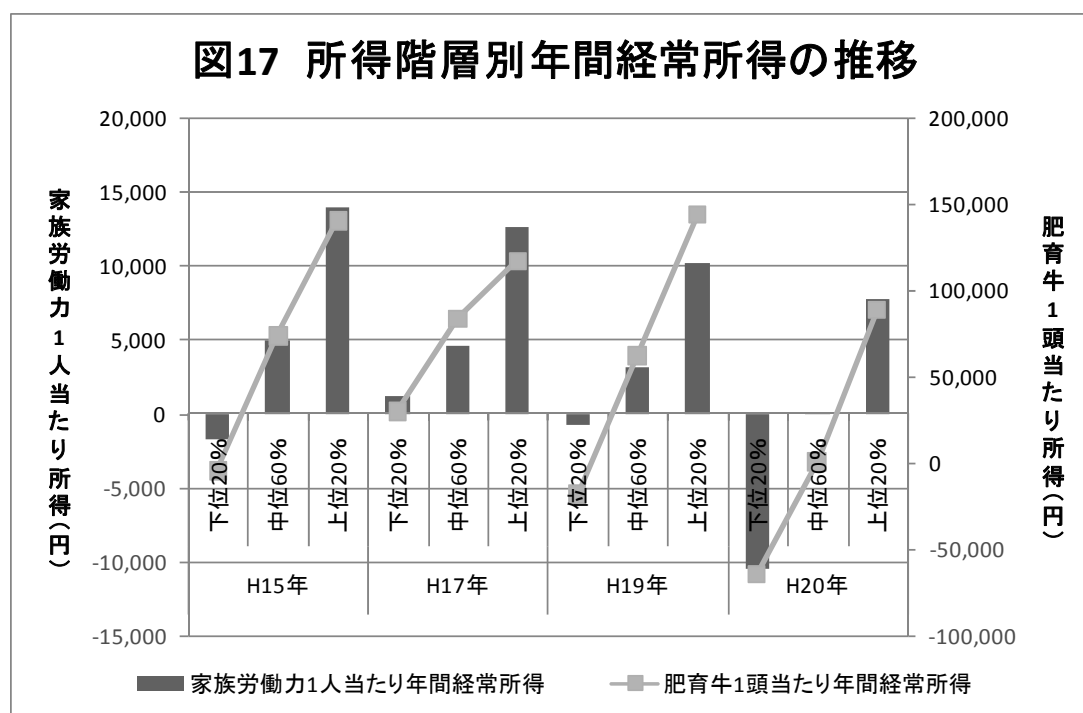
一方で、労働力員数には、頭数規模と同様の傾向は見られず、同程度の員数構成となっている。

(2) 経常所得

図 17 を見ると、明らかに、家族労働力 1 人当たり、肥育牛 1 頭当たりで、所得階層別で上位階層ほど所得は多くなっている。

一方で、先に記述したとおり、肥育牛飼養頭数規模別に経営間の比較をした場合、頭数規模が大きい階層ほど所得が下がる傾向にあった。

このことから、調査経営について、肥育牛飼養頭数規模の大きい階層には全体的に所得下位に位置づけられる経営が多いものの、所得上位を占める経営も同じく規模の大きい経営であることが分かり、経営・生産技術力の度合が経営成績に表れていることが示唆される。

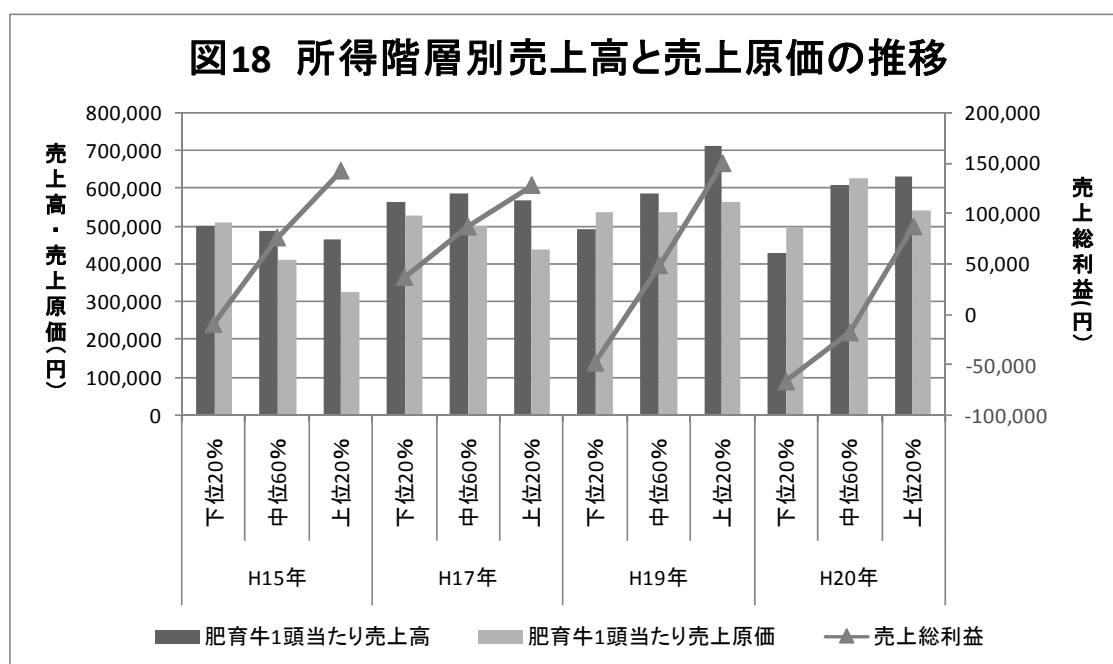


(3) 売上高と売上原価 (図 18)

平成 15、17 年度は売上高の差よりも売上原価の差が所得の大小に結果として表れている。

しかし、19 年度を見ると、売上原価は所得階層間で大きな差が見られない一方で、売上高には差が出ており、上位階層は下位階層の 1.5 倍となっている。

その結果、売上総利益は上位階層では 149 千円、それに対して中位階層は 48 千円、下位階層は△47 千円と大きな差が生じている。



(4) 技術成績

そこで、平成 19 年度の所得階層間で売上高に差が生じている要因を探るため、肥育牛の技術成績を見てみる。(表 17)

肥育牛 1 頭当たり販売価格が上位階層ほど高くなっていることはうかがえるが、増体重に階層間での差がないことと、肥育日数が上位階層ほど長くなっていることから見ると、上位階層の方が技術レベルが高いと言い切ることはできない。

むしろ、上位階層の特徴は、肥育日数が下位階層に比べて 30 日長い中、売上原価に見られるように生産コストを下位階層並みに抑えていることにある。

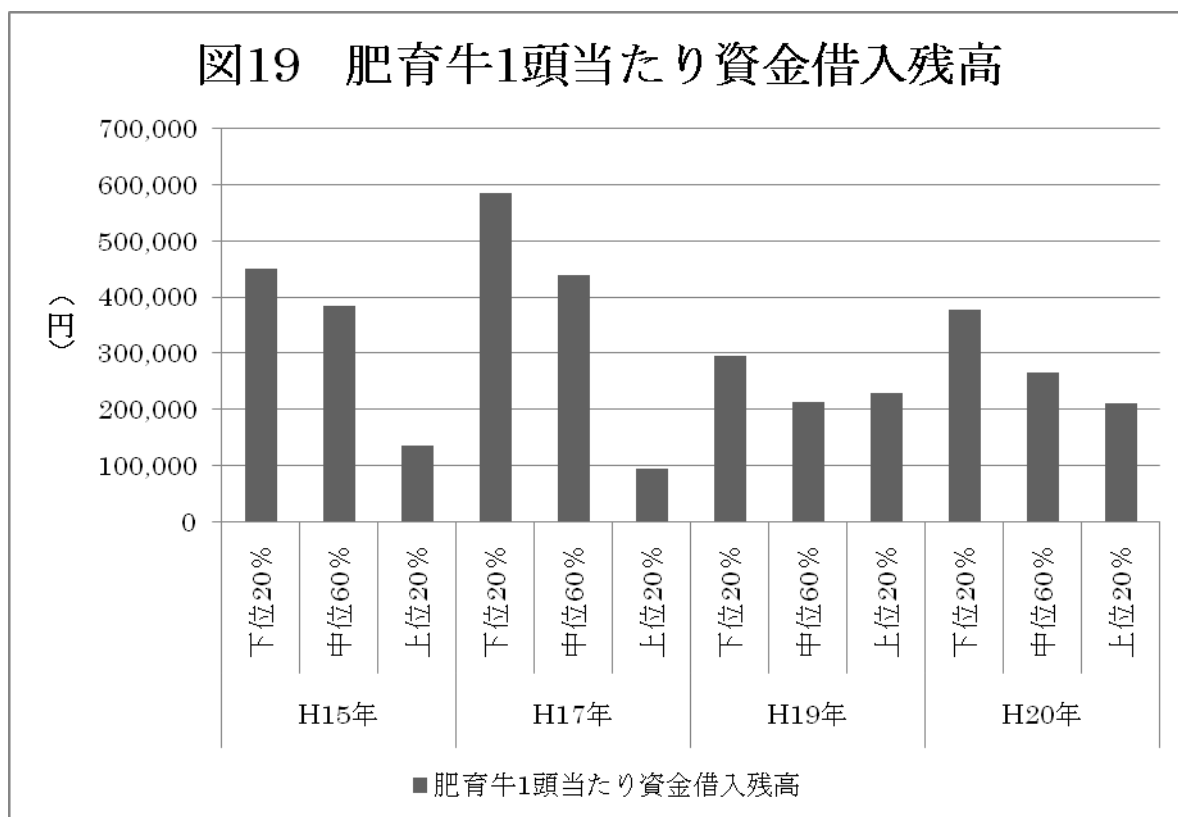
表17 家族1人1日当たり所得階層別の技術成績(平成19年)

区分		単位	H19年			H20年		
			下位20%	中位60%	上位20%	下位20%	中位60%	上位20%
技術諸要因 (肉用種)	肥育牛出荷1頭当たり販売価格	円	906.361	1,010.807	1,066.002	868.605	1,015.415	1,132.492
	枝肉1kg当たり販売価格	円	1,833	2,026	2,151	1,850	2,023	2,286
	肥育牛1頭当たり出荷時体重	kg	731	750	745	729	766	758
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重	kg	0.76	0.77	0.76	0.74	0.75	0.74
	平均肥育日数	日	575	603	605	617	626	631

(5) 経営の安全性 (図 19)

平成 15、17 年度は上位階層と下位・中位階層の肥育牛 1 頭当たり資金借入残高に大きな差が見られ、17 年度の上位階層 (93 千円) と下位階層 (584 千円) を比べると、6 倍の開きがある。

一方、19 年度には、各階層間の資金借入残高は接近し、どの階層も 200 千円台となっている。



(6) まとめ

以上、平成 15、17、19 年度の 3 年間で所得階層間の比較をしてみると、技術成績の違いによる収入の差以上に、生産コストの差が経営成績に表れていることがうかがえる。

2. 収益性と市場動向の関係

ここからは、収益動向の諸要因を飼料価格や肥育牛の市場価格の動向との比較から分析をする。

また、本調査のデータについては、平成 20 年度（速報値）も用いるが、調査戸数が 35 戸と限定されているので、利用にあたっては留意願いたい。

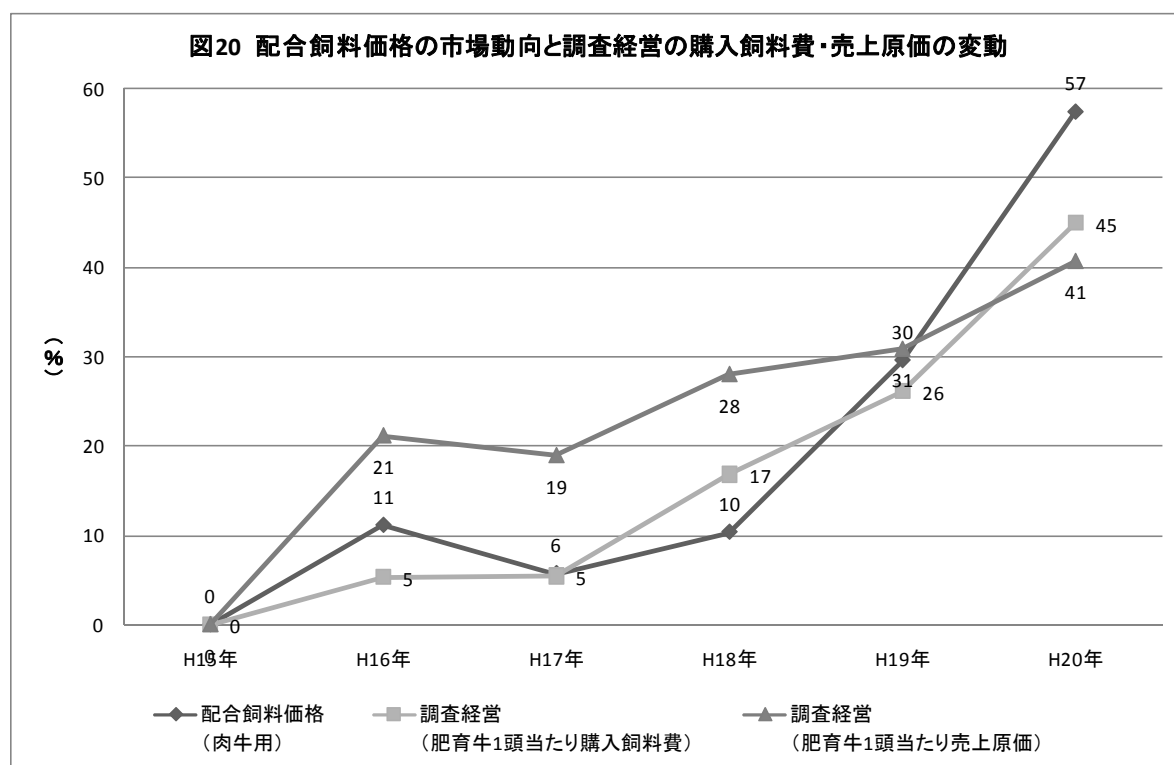
1) 飼料価格高騰の影響

平成 15 年度を 100 とした場合、16 年度以降、どの程度の割合で飼料価格が変動しているかをみる。

配合飼料価格の市場価格は平成 17 年にいったん下がり基調を示したが、その後、急激に上昇し、19 年度には対 15 年度比 30% 増、20 年度には 57% 増となっている。

一方、本調査の対象経営（調査経営）の肥育牛 1 頭当たり購入飼料費も上昇を続け、19 年度は対 15 年度比 26% 増、20 年度は 45% 増にまで至っている。

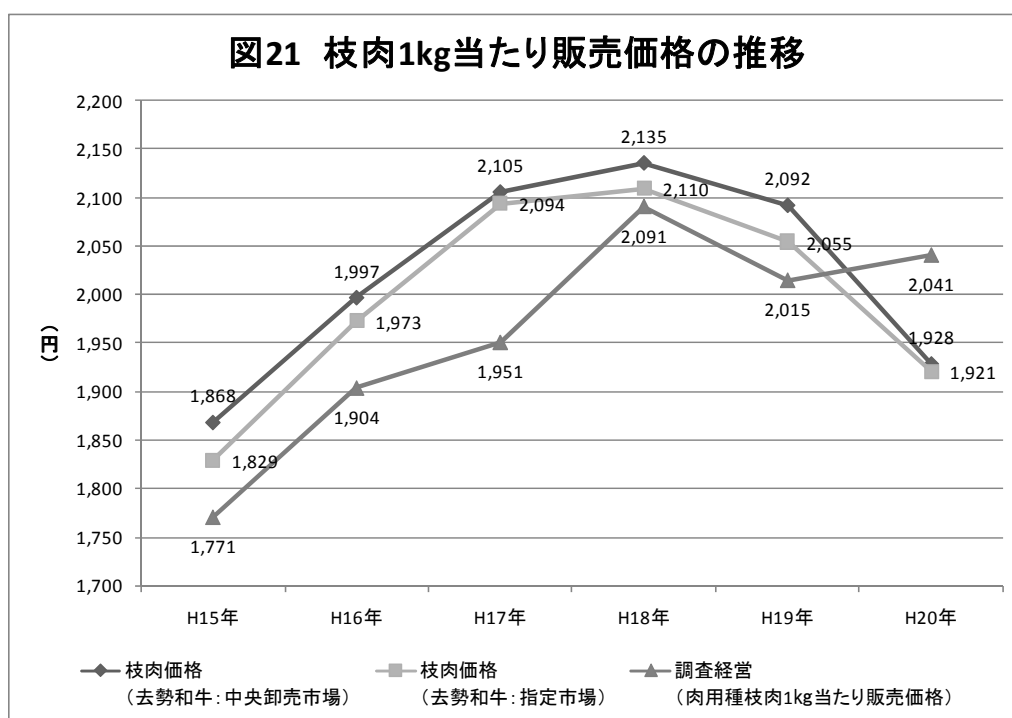
これにより、肥育牛 1 頭当たり売上原価は対 15 年度比で 19 年度は 26% 増、20 年度は 41% 増となり、配合飼料価格の高騰に呼応して調査経営の生産コストが上昇していることが分かり、現在、配合飼料価格が高止まっていることが肉用牛経営の経営体力の維持に大きな影響を及ぼすことが懸念される。



2) 肥育牛の市場価格の動向

去勢和牛の中央卸売市場、指定市場の枝肉 1kg 当たり販売価格の推移を見ると、図 21 のとおり、平成 18 年度（中央 2,135 円、指定 2,055 円）をピークにして 19 年度は中央 2,092 円、指定 2,055 円に下落、20 年度はさらに下がり、中央・指定ともに 1,920 円台となっている。

これに呼応する形で、調査経営の肉用種枝肉 1kg 当たり販売価格も同様の変動を示し、15 年度（1,771 円）から 18 年度（2,091 円）まで上昇し、19 年度は 2,015 円に下落しているが、20 年度は 2,041 円となっている。



3. まとめ

経営の規模拡大は、収益性の向上等を目指す際の一つの選択肢であり、家畜 1 頭当たりの生産コストを圧縮する等のメリットが挙げられる。

しかし、一方で、集計結果を見ていくと、経営規模の大きい調査経営には、経営管理・生産管理の両面で課題のある経営と所得上位を占める経営があることが分かり、必ずしも規模の大きさがメリットとして表れていない経営があることがうかがえる。

特に牛肉価格の市場動向が芳しくない現状にあっては、規模の大ききのメリットが経営に少しでも生きてくるように、家畜管理の点検とそれに基づく改善、生産コスト一つ一つの圧縮努力等が必要である。

肉用牛肥育経営の支援・指導にあたっては、対象経営の抱える課題を的確に捉え、それぞれの経営が本来持つべき有利性を見つけ、それが発揮されるようサポートしていくことが大切である。